



文部科学省

令和3年7月10日（土）

情報学科・専攻協議会（令和3年度総会・研究会） 説明資料

新学習指導要領に対応した令和7年度大学入学共通テスト （令和6年度実施分）の出題教科・科目について

文部科学省高等教育局国立大学法人支援課
企画官 後藤 教至

新学習指導要領に対応した令和6年度に実施する大学入学共通テストの出題教科・科目について

令和4年度高等学校入学者から実施される学習指導要領に対応した、令和6年度に実施する大学入学共通テストの出題教科・科目について、大学入試センターにおいて高校・大学関係団体の意見を踏まえ、令和3年3月24日に**大学入試センターとしての案を公表**したところ。

出題教科	科目（6教科30科目） ～令和5年度実施	
国語	「国語」	
地理歴史	「世界史A」 「世界史B」 「日本史A」 「日本史B」 「地理A」 「地理B」	地理歴史及び公民から最大2科目を選択 ※同一名称を含む科目の組合せて2科目を選択することはできない。
公民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	
数学等	「数学Ⅰ」 「数学Ⅰ・数学A」 ^①	①から1科目を選択
	「数学Ⅱ」 「数学Ⅱ・数学B」 ^② 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	②から1科目を選択
理科	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」 ①	A:①から2科目を選択 B:②から1科目を選択 C:①から2科目及び②から1科目を選択 D:②から2科目を選択
	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」 ②	
外国語	「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	1科目を選択



科目（7教科21科目） 令和6年度実施～	
「国語」	
「歴史総合、世界史探究」 「歴史総合、日本史探究」 「地理総合、地理探究」 「地理総合、歴史総合、公共」	地理歴史及び公民から最大2科目を選択 ※「地理総合、歴史総合、公共」はいずれか2科目を選択解答。 ※同一名称を含む科目の組合せて2科目を選択することはできない。ただし、「歴史総合、世界史探究」と「歴史総合、日本史探究」の組合せは可能。
「公共、倫理」 「公共、政治・経済」	
「数学Ⅰ」 「数学Ⅰ・数学A」 ^①	①から1科目を選択 ※数学Aについては、2項目（図形の性質、場合の数と確率）に対応した出題とし、全て解答
「数学Ⅱ・数学B・数学C」	※数学B及び数学Cについては、数学Bの2項目（数列、統計的な推測）及び数学Cの2項目（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）に対応した出題とし、このうち3項目の内容の問題を選択解答
「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」 ^①	A:①において2科目の内容の問題を選択 B:②から1科目を選択 C:①において2科目の内容の問題を選択及び②から1科目を選択 D:②から2科目を選択
「物理」 「化学」 「生物」 「地学」 ②	
「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	1科目を選択
「情報」	

※令和6年度に実施する試験は紙で実施する試験（PBT）とする。

今後の予定

大学入試センターの案を参考にしつつ、文部科学大臣の下に置かれている「大学入試のあり方に関する検討会議」のとりまとめ等を踏まえ、高校・大学関係者の協議を経て、**本年夏頃を目途に、文部科学省として出題教科・科目を正式に決定・公表予定**。

○未来投資戦略2018【平成30年6月15日閣議決定】

第1 基本的視座と重点施策

4. 経済構造革新への基盤づくり

(1) データ駆動型社会の共通インフラの整備

② AI時代に対応した人材育成と最適活用

・義務教育終了段階での高い理数能力を、文系・理系を問わず、大学入学以降も伸ばしていけるよう、大学入学共通テストにおいて、**国語、数学、英語のような基礎的な科目として必修科目「情報Ⅰ」（コンピュータの仕組み、プログラミング等）を追加するとともに**、文系も含めて全ての大学生が一般教養として数理・データサイエンスを履修できるよう、標準的なカリキュラムや教材の作成・普及を進める。

第2 具体的施策

Ⅱ. 経済構造革新への基盤づくり

[1] データ駆動型社会の共通インフラの整備

2. AI時代に対応した人材育成と最適活用

(3) 新たに講ずべき具体的施策

i) 大学等におけるAI人材供給の拡大

・**大学入学共通テストにおいて**、平成36年度から必修科目「情報Ⅰ」などの新学習指導要領に対応した出題科目とすることについて**本年度中に検討を開始し、早期に方向性を示すとともに、コンピュータ上で実施する試験（CBT）などの試験の実施方法等について検討を進める。**

○AI戦略2019【令和元年6月11日】（統合イノベーション戦略推進会議）

Ⅱ 未来への基盤作り 教育改革と研究開発体制の再構築

Ⅱ-1 教育改革

(1) リテラシー教育

【大学入試・就職】

・**大学入学共通テスト「情報Ⅰ」を2024年度より出題することについてCBT活用を含めた検討**

・**文系・理系等の学部分野等を問わず、「情報Ⅰ」を入試に採用する大学の抜本的拡大とそのための私学助成金等の重点化を通じた環境整備（2024年度）**

○成長戦略フォローアップ【令和3年6月18日】（閣議決定）

ii) 大学等におけるSociety5.0時代に向けた人材育成

・Society5.0時代に必要な学力を評価するため、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことなどを重視する大学入学共通テストを着実に実施していく。また、**当該テストにおいて「情報Ⅰ」を2024年度から出題することについて検討を行い、2021年度中に結論を得るとともに、将来的なCBT活用の在り方について検討を進める。**

第5章 ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入学者選抜

1. 令和6年度実施の大学入学者選抜に向けて

(2) 大学入学共通テストの科目構成等の見直し(新教育課程への対応等)

- 高等学校学習指導要領の改訂(平成30年告示)による「公共」「情報I」の新設等に伴う出題教科・科目の見直し等については、大学入試センターが、必履修教科・科目を尊重しつつ大学教育を受けるために必要な学力の測定に資するものとする、継続的で安定的な実施の観点から科目の数や組合せ等について必要なスリム化を行うこと等を考慮して検討を行ったところであり、令和3年3月24日付けで、大学・高等学校関係団体等からの意見聴取の結果を踏まえた、大学入試センターとしての一定の結論(これまでの6教科30科目から7教科21科目への再編を行う案)が公表されている。
- 本検討会議においても、「大学入学共通テストのセーフティネットとしての役割を重視し、科目の簡素化を進めるべき」、「新たに必履修科目となる『情報I』を出題すべき」等、大学入試センター案と軌を一にする意見が数多く出された。また、「国語」及び「数学」における記述式問題については、指摘された課題の解決は容易ではなく、導入は困難であると言わざるを得ないこと(第2章)、「英語」の試験形態については引き続き、マーク式問題及びICプレーヤーを使用して実施する方式とし、「読む」「聞く」に関する能力を中心としつつも「話す」「書く」も含めたコミュニケーション力を支える基盤となる知識等も評価するなど高等学校までの教育で培った総合的な英語力を可能な限り評価する方向で不断の改善が期待されること(第3章)を既に述べた。
- 上述の大学入試センターが公表した一定の結論において、大学入学共通テストはPBT(Paper-Based Testing)で行うこととされており、「情報I」については、問題の発見・解決に向けて情報技術を活用する力を見る出題を工夫することが期待される。また、今後、「情報I」の出題が決まった場合には、各大学の入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)に基づいた活用が推進されることが期待される。
- 文部科学省においては、大学入試センター案及び本検討会議提言を踏まえて、大学・高等学校関係者等との協議を行い、令和3年夏に予告を通知する必要がある。

R7大学入学共通テスト出題教科科目に関するスケジュール

